

安全と相互信頼

よこた としゆき
横田 俊幸

自動車総連・労働政策室

安全とは何か？辞書では「危なくない事」「物事が損傷・損害・危害を受けない、また受ける心配がないこと」と記載されている。この「安全」、何気ないことだが、私達が普通に生活を営む上では不可欠なものだろう。読者の皆さんは「安全」を考えた時に、何が一番に浮かびますか？私は自動車産業に携わる者としては、交通安全、現場の安全、車の安全性などが浮かぶ。他にも、治安の安全、食品安全、情報の安全、医療の安全など、考えれば他にもまだまだたくさんあるだろう。しかし、昨今その安全が怪しい雲行きになってきているように感じる。最近では「安全」に付加価値を見出し、商品やサービスを企画する時も大事なファクターになってきている。

TVのNEWS、新聞には毎日のように痛ましい事件・事故の記事がスペースを割いている。21世紀に入り、世界はインターネットに代表されるように、高度情報化社会を迎え、世界中のNEWSが瞬時に飛び込んできて情報量が増えている。それ故に、様々な事件、事故が起きているような錯覚に陥っているのだろうか？正解を持っていないが、私は世の中が安全ではなくなってきていて、むしろ我々のまわりには危険性が増していると最近では思っている。今、世間を騒がしている耐震偽装の問題もそうだが、「なぜ、このような問題が起きるのか？」「なぜ安全性を無視してまで、偽装するのか？」「関係者は良心が痛まないのか？」と思うと、正直いって理解に苦しむところだ。今回の事件だけでなく、最近の出来事は「想定範囲内」

ということでは語り尽くすことができない状況になってきているように思う。いつから、どのような理由で、どうして安全ではなくなってきたのか？誰か説明できる人がいれば、是非教えていただきたいものだ。

少し話しが飛ぶが、昔は悪戯をすると、祖父母に「そんな事したら、お天道様が見ているから罰が当たるよ！」とか「嘘つくと、舌ぬかれるよ！」とか「そんなことじゃ、立派な大人になれないよ！」と言われ、強烈に叱られたものだった。だからこそ大人になったら、「人様には迷惑は掛けない」ことが基本中の基本で、その上で、一人ひとりの力は小さいから、皆で社会全体を良くしていくために努力していくものではないのだろうか。その時に大事なのが相互信頼であると思っている。仕事でも、プライベートでも、地域社会でも、人々の価値観が多様化しようとも、一人の人としてそれぞれの価値観や目指す方向性の違いを理解した上で、お互いの違いを認識し信頼した上で物事を進めること、これこそ多くの安全を作り上げるための礎ではないだろうか？社会の安全、地域の安全、職場の安全、そして個人の安全を作り上げるために。

現在の社会があまりにもスピードや経済性、効率性を優先するが故に、もし人々の心にゆとりがなく、基本的な事がおろそかになり、それが結果として相互信頼を崩し安全な社会を脅かすのであれば、今一度大人達が踏みとどまって、見つめ直すべきだと思う。昔同様、今も子供達は大人達の行動を見て育っているのだから。